

## 第2回宗像市行財政改革推進委員会 議事録（要点筆記）

日 時	平成26年10月16日（木）19時00分～21時18分	会 場	第2委員会室
委 員	■（会長）宗像 優      ■（副会長）狭間 流 ■下田 真也              ■山下 永子              ■吉田 晴希              （敬称略）		
市	■中野経営企画部長      ■塔野経営企画課長      ■田中主幹兼企画係長 （事務局：経営企画課） ■立花行政評価係長      ■寺嶋		

### 1 開会あいさつ（会長）

### 2 第3次行財政改革大綱(案)について

○第1回宗像市行財政改革推進委員会の議事録について

⇒全委員、了承

○事務局より資料「第3次宗像市行革大綱(案)の変更点」に基づき、第1回委員会時とその後いただいた意見を受けて大綱(案)で変更した点等について、事務局としての考えを説明し、質疑応答

◆前回の大綱案から大きく変更したことについて

#### 【委員】

第3次行財政改革ということで、財政的に相当シビアな状況が想定されると思っているが、大綱案を見ると、従来の第1次、第2次と、大体同じような格好で、例えば、7ページの「持続可能な行政経営」に「財政基盤の確立」とか「効率的な行政経営」とか、抽象論というか文言で表している。

第3次では、財政が厳しいというインパクトを与えられるかどうかで変わってくると思うが、同じでいいのか。

#### 【事務局】

前回も同じようなご意見をいただいたが、大綱案の前段の部分で、環境の変化や財政状況、歳入歳出の今後の見通しあたりを整理したというのが1点と、財政の今後の見通しについては、財政課の方で、現在、次の財政安定化プランを策定中である。

現状においては、確かに文章による抽象論になっているかと思うが、大綱の中では大きな考え方を示していくという基本的な考え方のもと、文章で整理をさせていただいている。

#### 【委員】

具体的な案件についてはアクションプランの段階で出てくるということか。

**【事務局】**

大綱では大きな考え方、方向性を示し、それに基づいて、今後具体的なアクションプランを作成し、その中で目標額なども定めていくことになる。

◆女性の有職化に関して

**【委員】**

女性の有職化という視点でアクションプランを検討してもらえるのかという質問が1点と、あと「宗像市及び近隣市(福岡都市圏)の女性就業状況」のデータに関して確認したところ、やはり宗像市では女性があまり働いていないと思ったので、その辺の背景、多分高齢化が進んでいるというところもあると思うが、年代別とかも含めて、アクションプランを検討してもらえるのか。この辺はもう少し何か、具体的な施策が考えられそうなので、もう少し深追いしていただきたい。

**【事務局】**

女性の有職化という視点については、事務局でも大綱の中に盛り込めないか、随分検討させていただいた。その結果、「雇用の拡大」、「子育て世代に選ばれる都市イメージ」などという表現になったが、「雇用の拡大」については男女問わずといったようなニュアンスもあり、「子育て世代に選ばれる都市イメージ」ということについては、女性が働いて子育てもしやすい、といったようなニュアンスでもとっていただけると考えている。

また、ここで出た意見については、アクションプランを検討する中において、事務局の方からも、関係のある課には伝えていきたいと考えている。ただ、関係課との調整が生じてくるので、どのような整理になるかということについては約束できないが、そのように考えている。

**【委員】**

関連して、同資料のデータを見て気づいたのだが、宗像をはじめとする近隣市では、女性の就業率に比べて有配偶者の就業率は若干低くなる傾向があるが、糸島市、あと合併前では前原市とか二丈町あたりが、女性就業率に比べて有配偶者の女性就業率が上回るような形で数字が出ている。その結果としてなのか、女性の就業率も高くなっているというところがあるので、今後のアクションプランの方に何らかの形で盛り込める方向性が出てきたら、地域的な差異もあると思うが、ぜひ糸島市の取り組みあたりを参考にするのも、何かいいヒントが得られるのではないかと。

**【事務局】**

この女性の就業の数だが、カウントの定義や基準も含めて分析して、今後に生かしていきたい。

◆行財政改革大綱の記載内容について

**【委員】**

具体的に数値目標はアクションプランで立てるということだが、手順として、成行き予測をして、その数値を先に出して、それに対して目標を立てるという、そういうやり方を行ってくれるだろうかということをお尋ねしたい。

**【事務局】**

本市がどういった財政状況が見込まれているのか、あるいは今後アセットマネジメントが市の財政に及ぼす影響がどのようになってくるのか、その中で行財政改革が今回果たす役割はどのようなかということを見やすくしたいということはもちろんあるが、現在、財政安定化プランの見直しに着手しており、何もしない場合の成り行きと収支計画の乖離幅が出てないので、わかりにくい議論をさせていただいていると思うが、財政安定化プランができ上がったら、その辺がすごくクリアになってくると考えている。

同時に今、アセットマネジメントも、公共施設、公共インフラのある程度の想定耐用年数を含めて、ここ30年間でどれぐらいの費用がかかるかという試算も行っており、それを単年度に割り戻したらこれぐらいになるという試算もやっている。その部分もある程度シミュレーションができれば、そういった資料もお出しできるのだが、数値的なところがわかりにくい中、議論させていただいているということで申し訳なく思っている。

いずれアクションプランはまた審議していただくことになるが、そういったデータが出せる状況になったら、出していきたいと考えている。行財政改革の中では、とにかく乖離幅を解消するための行財政改革であるということで、アクションプランの中でそれを具体化させていきたいということをご理解いただきたい。

**◆行革大綱の位置づけについて**

**【委員】**

先ほどと若干重複するが、基本理念自体をもう少しシビアな形に書き換えるという格好にするのか、基本理念はあくまでもこのままで、アクションプランだけを変えるのか。

**【事務局】**

基本理念については、ここに書いてある「将来にわたり安定し、充実した自治体経営を支える改革」ということ自体が、大変重きがある理念だと考えており、今言われた、これから厳しくなるといったことは、これから後の、「環境の変化」であったり、「今後の課題」の歳入歳出の問題であったり、その辺で書きあらわしていると考えている。

**【委員】**

私はこれを拝見して、十分厳しいと思った。日本の自治体で破綻するところも、既に出てきている中で、安定した財政基盤を持って将来にわたり安定充実するという枠が課せられるということは、これはかなり厳しい状況を突きつけられていると思う。従って、基本理念とした考え方と

しては、この方向性は間違っていないと思う。理念のところでも余り細かいことを書き過ぎると、逆に読む側としては読みづらいなという気がする。

◆環境の変化について

【委員】

言葉の問題のような気もするが、「環境の変化」には宗像市における環境の変化、ミクロ的なものしか書かれておらず、狭い範囲のことしか見えていないような感じなので、国の動きなどマクロ的な部分も整理して、記載したほうがいいのではないか。

【事務局】

整理させていただきたい。

◆改革の効果、活動計画について

【委員】

アクションプランは年次でやるということだが、年次というと細かい話になる。大綱の計画期間にあわせて、まず5年間のトータルにおいて方向性を出して、それを年次に分割したときに、アクションプランでこうなるという形でした方が、実施もしやすいし、わかりやすいと思う。

【事務局】

年次計画と書いてはいるが、実際には、5年間でどういった目標で、どれくらいの削減を見込んでいくか、そして、それに向かっていくために毎年何を実施していくかというような、今言われたような組み立てになってくると考えている。

◆財政の成り行き予測について

【委員】

成り行き予測はもう絶対必要だと思う。ただ問題は、大綱の段階で出せなければ、大綱の中でインパクトを与えていかなくてはいけないのではないか。

【事務局】

インパクトということだが、財政安定化プランの中で、このまま成り行きで行ったら、これだけ歳入が減少して、歳出が増えてという形が見えてきて、非常にこの数字がインパクトを与えるような見せ方になってくると思う。

10 ページの図については、財政安定化プランの数値目標を達成するための一つの手段として、アクションプランに取り組んでいくということで、示させていただいている。この図で財政安定化プランとアクションプランが連動するというような形になっているが、この財政安定化プラン

の中ではそういったインパクトのある数字が出てくるのではないかと考えている。

そして、その数値を達成するために、このアクションプランであったり、その他さまざまな施策を打ったりして、財政安定化プランの数値目標を達成していくといったことになると考えている。

**【委員】**

これから先、どこの自治体においても、そして国自体も非常に厳しい状況が想定されている。相当の覚悟でやっていかないといけないということを植えつけるためには、どういう格好の表現にしたらいいいのか、そのあたりを検討して頂きたい。

**【事務局】**

繰り返しになるが、今後、どれだけ財政が厳しくなるかといったところを明確に見せていくべきだろうといったところは恐らく、この財政安定化プランの中で出てくることになると考えている。

財政安定化プランというのは、あくまでも財政を安定化させるためには、この数値目標を達成していきましょうというような目標であるというところをまずご認識いただきたい。さらに財政安定化プランでは、まず成り行き状況を推計し、次にそうならないようにするためにお金はここまで抑える、という収支計画を立てる。そしてその成行きと収支計画の乖離幅を埋めるための一つの手段として、行革のアクションプランという形で実行していきたいというところを、今考えている。

**【委員】**

今の話からすると、イメージは、数値目標として財政安定化プランが上にあるという形になるのか。数値目標としては、財政安定化プランが1番上に来て、これを、行財政改革アクションプランが、実際に各課とのつなぎ役として、うまく遂行管理をするというイメージになるのか。

**【事務局】**

確かに行財政改革のアクションプランについては、当然数値目標を掲げるという部分もあるが、その他に、基本方針の中に効率的な行政経営という形で、すぐに数値にあらわれない部分も出てくると考えている。取組によっては、長い期間をかけて効果が出てくる部分もあるので、なかなかすぐに財政安定化プランに寄与できるかという難しい部分もある。10ページの図については、各実施計画等を支えるという意味で、財政安定化プランと行財政改革大綱を、並列という形で表記している。

ただし、やはり、財政安定化プランに掲げる数値目標を目標として、取り組んでいくという方向には間違いがないというところである。

**【委員】**

ちょっと頭を整理したいのだが、財政安定化プランというのは数値上、これぐらいの歳入に対

してこういう歳出になるのでお金が足りなくなる、だからこの分を削減するというものである。

アクションプランはそれを背景にして、行革として、どういった貢献ができるのかというところを示すところだと。だから財政安定化プランのために行動するのは、行革のアクションプランだけではなく、それ以外にも、何らかの要素というものが出てくるので、イコールするわけではないということか。

**【事務局】**

そのとおりである。

◆行財政改革大綱の構成について

**【委員】**

大綱の公表や財政安定化プランの策定についての今後の流れはどうか。

**【事務局】**

今後の流れについては、今回、大綱のご意見をいただき、了承いただけるようであれば、その後パブリックコメント等を通して、市民に公表し、ご意見をいただく形になる。

それと同時に、アクションプランの策定へと入っていく。その際に、委員の方からもアクションプランに対するご意見やアイデアもいただきたいと考えている。財政安定化プランについては、今年度末を予定していると聞いている。

**【委員】**

パブリックコメントの際には、今頂いている改革大綱案の原稿を市民に示す形になるのか。そうであれば、特に「環境の変化」のあたりは、できればもう少しグラフと数とかを入れて、人口がこれぐらい減っていきますよとインパクトがある形で、グラフや図で示した方が、読む方もわかりやすいのではないか。

**【事務局】**

検討させていただく。

**【委員】**

行財政改革大綱、アクションプランの策定後に、財政安定化プランが出てくるということか。そうであれば、大綱やアクションプランを延ばして、財政安定化プランを少し早目にして年度末と一緒に出すということはできないのか。

**【事務局】**

アクションプランの最終的な確定時期ぐらいに、財政安定化プランの成り行きと収支計画が間に合うように、できるだけ調整したい。

**【委員】**

構成の流れのところだが、1番最初に、行財政改革をめぐる新しい動きみたいなものが入れられないか。何が言いたいかというと、今新たな手法が世界で出てきていて、それが国でも研究されている。どういうものかというと、今まで行政がやってきた事業に関して、民間が担える部分は担ってもらい、そこで安くできた分と成果を踏まえた上でリターンをもらうというもので、民間が投資をする手法が始まっている。これから大綱をつくる中で、新しい手法、いわゆる投資的手法において、民間が担える部分は民間が担いつつ、両方ともウインウインなリターンまで持っていくという手法が出てきているので、そのような大きな新しい動きが出てくるのであれば、大綱のところ、新しい手法の検討等でも良いので、盛り込めないか検討していただきたい。

**【事務局】**

盛り込めないか検討したい。

◆全体を通じて

**【委員】**

歳出決算状況の平成25年度決算が間に合えば、載せた方が良いのではないか。

**【事務局】**

最新のものを入れていきたい。

**【委員】**

財政安定化プランについて、市民に公開したときに、財政安定化プランとは何かということにならないか。

**【事務局】**

確かにそのとおりなので、わかりやすい形で表記する。

**【委員】**

10ページの図の中の、財政安定化プランの矢印の上にある「財政の中長期的な見通し」という表現が違うのではないか。ここも検討していただきたい。

**【事務局】**

検討させていただく。

**【委員】**

10ページの図で、行政の面で行財政改革大綱と、金の面で財政安定化プランがある。しかし、

アクションプランというのはその下であり、行政の面と金の面と両方である。図ではこのレベルの違うものを一緒にしている。マスタープランがあって、マスタープランを実施するには、基本構想、基本計画、実施計画のピラミッドがあり、その流れを受けて大綱があって、そして大綱を実施するものとして、アクションプランがあるということになるのではないか。

大綱とアクションプランが同レベルじゃなくて、あくまでも大綱に基づいてアクションプランで実施するというのではないか。そして大綱からアクションプランに移っていくときに、財政的な問題については、財政安定化プランというものを意識しながら、アクションプランに移していくということではないか。

#### 【事務局】

ここの相関関係の説明であるが、基本的な考え方を申し上げると、2次の総合計画というのは、10年間のまちづくりの基本的な取組み方針を示したものである。それが基本にあり、そういったまちづくりを実現するためには、健全財政をある程度維持しながらまちづくりを行っていく、それが財政安定化プランと総合計画の関係である。

そして行財政改革は、ただ単に削れ削れということではなく、健全財政を維持しながら将来負担を過度に残さないということに配慮しながら、最終目標としてはまちづくりにある。行革のための行革ではないという相関関係を表しているつもりであったが、うまく伝わってないところもあるようなので、再度整理をさせていただきたい。

#### 【委員】

11ページの推進体制の図だが、市がこういうことをやっているということだけで、その関係、コミュニティとか市民とかそのあたりとの関わりを入れていかないと、今回の行財政改革で関わりがかなり大きくなってくのではないか。行政が単独で経営していくというようなニュアンスが若干あるような気がする。

#### 【事務局】

この大綱については、行政がどう取り組むかというところに主眼を置いて書いている。ご指摘の部分については、たとえば補助金の見直しや負担金の見直しなどが、今後アクションプランとして出てくることになると思うが、そういったところでは当然のことながら、相手方があることも多々出てくると思うので、アクションプランの中で整理はしていきたいと考えている。この大綱においては、大きく行政としてどのように取り組んでいくかということで、その詳細についてはアクションプランで検討させていただくということで整理させていただきたい。

#### 【委員】

大綱に考え方があって、具体的な話はアクションプランで出てくるということだが、大綱には全然なくて、アクションプランで出てくるというのがどうかと思うが。

#### 【事務局】



コミュニティの関係だが、確かに結果として、地域のコミュニティ組織の方々が、様々な地域課題を解決するような取り組みを積極的にやっていただければ、行政の負担というのは軽減されるが、市民参画協働は本市にとって最も大事な政策であり、それは行財政改革のためというよりも、むしろ本来あるべき住民自治、市民参画協働というところの柱でやっているのだから、例えば事業費、経費削減のために、コミュニティがあるということでは、まず理解が得られない。あくまでも、市民参画協働、住民自治という概念の中でコミュニティをとらえて、その活動が活発化することが結果として、行政経費の軽減につながるという考え方をしているのだから、それを行革の中で位置づけるというのは難しいと考える。

**【委員】**

行財政改革は財政改革だけじゃなくて行政改革もあり、いわゆる行政サービスを改善するため、合理化だけじゃなくて、サービスの改善も行政改革という位置づけで入れ込んでもおかしくないのではないかと感じる。行革は合理化することだから、協働を入れるのはおかしいという話でもないのではないかと。

**【事務局】**

第1次行財政改革では市民参画協働と経費の削減を2本柱にやってきた。第2次行財政改革では「ヒト・モノ・カネ」ということで、人事、組織、行政サービス、財政、経営資源の一体的な改革を目指してやってきた。第3次ではこれからの財政状況を踏まえて、財政に主眼を置いて行財政改革に取り組みたいと考えている。

**【委員】**

そうすると、財政が非常に逼迫するというところを、大綱の中でももう少し匂わせていいのではないかと。

**【事務局】**

1 ページ目の背景のところ、これまで第1次、第2次と取り組んできたということを前提に、この第3次が始まっているということで、簡単ではあるが書き込ませていただいている。

**【委員】**

2 ページのところ、「これまでの取り組み」として書かれている中で、例えば、表の下に第3次を追加して、財政の改革についてより一層やりますというようなことを書くと、今の話はストンと流れて、一般の人から見たらわかりやすいのではないかと。

**【事務局】**

再度、検討したい。

○本日の委員会でもいただいた意見を参考に、再度、修正案等を作成し、委員会においてご議論してい

ただきたいところだが、限られた期間の中での日程調整が難しいため、書面審査という形をとらせていただきたい。また、最終的な詳細の細かい修正については、会長にご一任願いたいと考えているが、よろしいか。

⇒全委員、了承

### 3 その他

なし